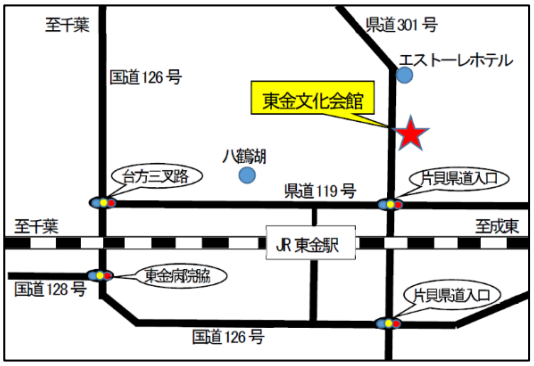
第６３回試験研究成果発表会　畜産部門プログラム

日　時　令和７年１１月１１日（火）
　　午前 10 時～午後４時 30 分
　　（途中昼食休みあり）
場　所　東金文化会館　小ホール
　　東金市八坂台１－２１０７－３
　　０４７５－５５－６２１１

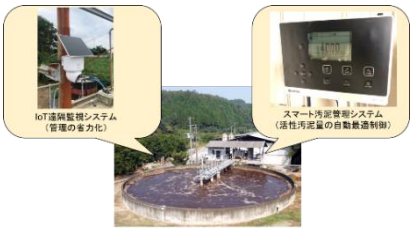


＜養豚・養鶏部門／総合討論＞ 10:10～12:00

１　IoT を利用したスマート排水処理システムの構築

畜産総合研究センター　企画環境研究室　長谷川　輝明

IoT 遠隔監視システムとスマート汚泥管理システムの利用により、排水処理施設の管理の省力化（労力 70%削減）と活性汚泥量の自動最適制御を可能とした。



排水処理施設

２【試験の紹介】豚における特定遺伝子型の判別検査の概要と新たな調査研究の紹介

畜産総合研究センター　養豚養鶏研究室　　細野　真司

近年、豚の抗病性に関与する遺伝子を検出する技術が確立された。この抗病性に関与する遺伝子について解説するとともに、これら技術の活用に向けた試験研究を紹介する。

３【現地調査】不織布による鳥インフルエンザ侵入防止対策に関する調査

畜産総合研究センター　養豚養鶏研究室　小形　次人

不織布等による鳥インフルエンザ侵入防止対策に関する聞き取り調査を行い、施工や維持管理のしやすさ、破損や交換頻度などを調査したので概要を報告する。

４ 高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)対策へのドローンの活用

東部家畜保健衛生所　防疫課　蒲生　汐理

HPAI ウイルスを媒介する可能性のある野生動物への対策として、カメラ付きドローンを活用した施設の破損状況や野鳥の痕跡を確認する農場点検の取組について紹介する。

＜　昼食時間　12:00～13:10　＞

＜飼料作物・酪農・肉牛部門／総合討論＞ 13:10～16:15

５ トウモロコシ・ソルガム混播栽培用トウモロコシの品種比較試験

畜産総合研究センター　嶺岡乳牛研究所　冨松　大智

本県に適した混播栽培用のトウモロコシ品種を選定するため、早中生・中生系各２品種の合計４品種を用いて品種比較試験を実施したので、その内容を報告する。

裏面へ続く

６ 青刈りトウモロコシの収量および調査項目の年次変化について～奨励品種選定試験より～

畜産総合研究センター　企画環境研究室　名取　美貴

毎年実施する青刈りトウモロコシ奨励品種選定試験の直近５年間の乾物収量や稈径などの収穫調査結果において、異品種間に共通した年次変化の傾向が認められたので紹介する。

７ 栽植密度が飼料用トウモロコシの収量性に与える影響と現地調査からみた実情

畜産総合研究センター　企画環境研究室　岡庭　就祐

トウモロコシの収量確保には改めて栽植密度が重要と考えられた。また、栽培農家の現地圃場を調査した結果収穫時の栽植密度は様々な要因でばらついていた。

８【現地調査】暑熱対策の違いが乳牛の生産性に及ぼす影響の現地調査

畜産総合研究センター　乳牛肉牛研究室　小林　大誠

令和５年度より取り組んでいる県内酪農家における暑熱対策現地調査の実施状況と、今年度より取り組んでいる毛刈りによる暑熱対策の効果検証の調査内容について報告する。

９ ホルスタイン種未経産牛におけるプロジェステロン・エストラジオール配合剤（PRID）１２日間留置による卵巣反応

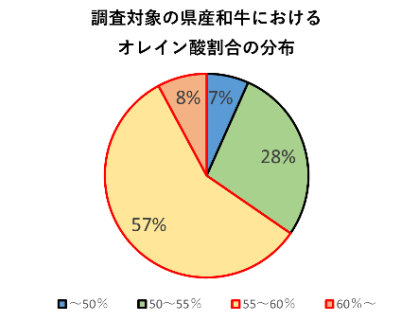
畜産総合研究センター　嶺岡乳牛研究所　久保田　尚

未経産牛に PRID 留置による発情同期化処置を施し定時胚移植を実施したところ、発情・排卵同期化率は良好であり、留置期間中の黄体退行時期により受胎率に差が出る傾向があった。

１０【現地調査】県産黒毛和牛における脂肪酸組成の現状

畜産総合研究センター　乳牛肉牛研究室　三根　琴美

令和６年度に調査を行った脂肪酸組成データについて分析した結果、オレイン酸 55%以上の牛肉は全体の 65%と高かった。さらに、脂肪酸組成に影響する要因を解析したので紹介する。



１１ 交雑種去勢肥育牛における早期出荷のための肥育前期粗飼料割合の検討

畜産総合研究センター　乳牛肉牛研究室　行川　貴浩

交雑種去勢牛で肥育前期粗飼料割合が 30～40%の場合、24 ヵ月齢での早期出荷が可能である。また、発育・増体、枝肉成績、収益性等を総合すると、40%が最も適当である。

【お問い合わせ先】
千葉県畜産総合研究センター　電話：043-445-4511　ＦＡＸ：043-445-5447
千葉県農林水産部畜産課　電話：043-223-2939　ＦＡＸ：043-222-3098
発表予定時刻等は畜産総合研究センターホームページ
（https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-chikusan/）をご覧ください。